

過去の災害(地震・津波)

2 明治三陸地震津波(明治29年6月)、昭和三陸地震津波(昭和8年3月)

明治三陸地震

三陸沿岸一帯は、3月頃からうなぎの群れが多く見られた。6月には本マグロ、カツオ、いわしなどの大群が定置網に殺到し途方もない漁獲量となる。40年前の1856年(安政3年)の地震津波の時も同様にうなぎの発生やいわしの大豊漁があった。地震発生2、3日前には、潮流の乱れにより漁船の航行に支障があった海域もあり、また、水温の急変があったともいわれ、これら海中の異変により魚群が海岸近くに移動したのではないかと推測される。

沿岸一帯の漁村では、井戸水が前日あたりから白や赤に変色し、にごりはじめる。当日午後の干潮時、各地でめったにないほどの大干潮となり、井戸水も激減した。

突然沖合いから、雷鳴あるいは砲撃のような大音響が寄せられ、前後して多くの怪火が海上にみられた。
※久慈では長久寺(新井田付近)で激雷のような音響の直後、久慈川沿い一帯(新井田、田屋、川崎町)では急激に浸水し、家屋は見る見るうちに漂流、破壊され、激流の中に消えた。

飛沫を上げ水の峰となって突進した。

電線、道路が破壊され通信は途絶。海岸域では、家々は跡形もなく消え、破壊された家屋・漁船の破片、津波に運ばれた岩石が散乱。いたる所に横たわる多くの死体は、梅雨期の高温多湿により急速に腐敗して死臭が満ち、うじとハ工が大量に発生した。

食料、衣類、寝具などが著しく不足。被害をまぬがれた者の中には、精神に支障をきたす者や原因不明の病気に倒れる者が続出した。被災地は警察力が失われ、無法地帯と化し盗難が多発。また、津波の恐怖から各地で避難騒動が起き、子供が圧死した事件もあった。

前兆現象
- 海域 -

前兆現象
- 陸域 -

津波の発生

津波の様相

襲来直後の様相

被害後の状況

昭和三陸地震

明治の時と同様に、沿岸各地で大豊漁がみられ、いわしの大群が海岸近くに殺到。例年11月で終わり、以降少なくなるはずの漁獲は、越年後もさらに激増する異様な状況であった。1月頃から続発した地震の影響により、いわしの群れが沿岸に移動したものと推測された。大量のあわびや海藻類が岸に漂着した所もあった。

明治の時と同様に、井戸水の減少、濁水や変色・にごりなどが沿岸南部地方に多くみられた。

明治の時と同様に、三陸沿岸各地で砲撃音に似た大音響と海上の発光現象(稲妻のようなきらめく光)がみられた。また、津波襲来と同時に強いあおり風が発生した。

切り立った波が高くそびえ、すさまじい速さで襲来した。

被災時一命を取り留めるも、厳寒の深夜のため凍死する者が多数あった。また、「冬と晴天の日には津波は来ない」という迷信から、避難しなかった人も多く、被害が拡大した。

明治の時と同様に、被災地は無法地帯と化す。被災家屋からの盗難、漂流物の横領、物資不足に乗じて暴利を得る商人の横行が各地でみられた。

3 チリ地震津波(昭和35年5月)

遠地津波のため、明治・昭和の大津波のような特殊な現象はみられない。津波は、直立状の大波が押し寄せる形ではなく、潮が静かに上下し、海面がふくれ上がってゆっくりと襲来した。ただし、陸地に浸水すると急激に流速を増し、河川をさかのぼる時は小さく直立した形で進んだ。各地では防潮堤の整備が進んでおり、また、明治・昭和の大津波が夜間だったのに比べ明け方であったことや、各漁港では出漁準備中でもあり、潮流の異変・引潮から津波襲来を察知し、すみやかな避難広報により人命損失は少なかった。

4 昭和43年十勝沖地震津波(昭和43年5月)

- AM 9:49頃 突然震度5の強震に襲われ市内は大混乱となった。
- AM10:10頃 津波警報発表。
- AM10:13頃 第1波の海面変動(引き潮)により海岸約150m程沖に向かって海底が現れる。
- AM10:20頃 第1波到着。波高4m20cm。漁船数隻が転覆。
- AM10:45頃 第2波到着。波高3m50cm。
- AM11:04頃 掘込港湾内の海水が約300mにわたり、濁流のようなうねりをたてて引いた。
- AM11:10頃 最大波となる第3波が到着。波高4m50cm。2000トン級の鉄鋼貨物船が岸壁に打ち上げられ、漁船30数隻が転覆・沈没し、破壊された。
- AM12:35頃まで 波高3mを越える津波が5回襲来した。

5 その他の津波

- ・慶長16年(1611年) 10月 三陸地方で強震。震害軽く、津波の被害甚大。
- ・延宝5年(1677年) 3月 三陸地方で強震。野田・久慈などで船流出、破損。
- ・宝暦13年(1763年) 2月 津波あり。前年から地震頻発、4月頃まで余震続く。
- ・安政3年(1856年) 7月 北海道南東で大地震。震害は軽い、三陸に大津波襲来。波高、野田6m、釜石3m。南部領で死者・家屋流出多数。

6 津波による被害の状況

	明治三陸地震津波	昭和三陸地震津波	チリ地震津波	昭和43年十勝沖地震津波	チリ中部沿岸地震津波	東日本大震災
地震発生日時	明治29年(1896年) 6月15日 午後7時32分頃	昭和8年(1933年) 3月3日 午前2時31分頃	昭和35年(1960年) 5月23日 午前4時10分頃	昭和43年(1968年) 5月16日 午前9時49分頃	平成22年(2010年) 2月27日 午後3時34分	平成23年(2011年) 3月11日 午後2時46分頃
地震の状況	午後7時32分、5分間にわたる弱震 午後7時53分、弱震 午後8時2分、弱震	突然の非常に激しい揺れ 振動時間5分から10分とかなり長い強烈な水平動	(遠地地震)	突然の非常に激しい揺れ	(遠地地震)	午後2時46分、非常に激しい揺れが約2分続いた
久慈市で観測された震度	弱震	5程度	(遠地地震)	5	(遠地地震)	5弱
震源地	岩手県東方沖合 約180kmの海底 北緯39度5分、東経144度 海底の陥没と推定される	岩手県東方沖合 約200kmの海底 北緯39度23分 東経144度52分	南米チリ中部沿岸 南緯38度 西経72度	襟裳岬南南東 約120kmの海底 北緯40.7度 東経143.6度	南米チリ中部沿岸 南緯36.1度 西経72.6度	三陸沖 深さ 24km 北緯38.1度 東経142.9度
マグニチュード	6.8(8.2)	8.1	8.5	7.9	8.6	9
第1波の海面変動(引潮)開始時刻及び状況	午後7時50分~8時頃 ある湾では1,000m以上も海水が引いた 午後8時7分頃(第1波)	午前2時45~50分前後(推定) 午前3時頃(第1波)	24日午前4時5分頃 非常に大きな引き潮 24日午前4時20分頃(第1波)	午前10時13分頃 海岸約150m程沖に向かって海底が現れる 午前10時20分頃 波高4m20cm 漁船数隻の転覆	28日午後2時11分 波高30cm	午後3時30分頃
被害概要(全体)	死者 : 26,360名 流出家屋 : 9,879戸	死者 : 2,995名 流出家屋 : 4,885名	死者 : 105名 流出家屋 : 1,474名	死者 : 49名	住家被害(浸水) : 57棟	死者 : 18,958名 行方不明者 : 2,655名 全壊 : 127,291棟 半壊 : 272,810棟
岩手県の被害概要	死者・行方不明者 : 18,158名 負傷者 : 2,943名 倒壊・流出家屋など : 6,702戸 船舶流出破損 : 5,456隻	死者・行方不明者 : 2,671名 負傷者 : 805名 住家被害(倒壊、流出、焼失、浸水) : 6,357戸 船舶流出 : 7,122隻	死者・行方不明者 : 62名 負傷者 : 277名 住家被害(倒壊、流出、浸水) : 6,678戸	死者 : 2名 負傷者 : 277名 住家被害(倒壊、流出、浸水) : 277名		死者 : 5,112名 行方不明者 : 1,142名 負傷者 : 211名 全壊 : 19,107棟 半壊 : 6,599棟
久慈地方(九戸郡)の被害概要	死者(人) : 212 長内村 : 20 宇部村 : 191 夏井村 : 41 侍浜村 : 23 種市村 : 186 中野村 : 68 野田村 : 260 計 : 1,001 倒壊・流出家屋棟 : 400戸 漁船流出 : 847隻	死者(人) : 10 長内村 : 6 宇部村 : 6 夏井村 : 1 侍浜村 : 4 種市村 : 101 中野村 : 6 野田村 : 8 計 : 136 住家被害(倒壊、流出、浸水) : 200戸 漁船流出 : 1,081隻	死者 : 0名(重傷:久慈市1名) 波高(m 津波浸水高) 久慈湾 : 4.5 野田湾 : 4.4 八木港 : 3.1 住家被害(倒壊、流出、浸水) : 22戸 漁船流出など : 147隻	死者 : 1名(罹災世帯 : 75世帯) 罹災者 : 338名 船 : 43隻 非住家 : 23棟 ※地震発生前3日間降り続いた雨は132mmに達し、河川は警戒水位を越える状況であった。 長雨、地震、津波と三つの天災地変に間をおかずに見舞われた。	波高 久慈港 1.2m	p.42参照